

○議長（古川元規） 加藤智恵子議員。

○3番（加藤智恵子） 3番加藤智恵子です。私からは、通告のとおり、道路下のインフラの安全性と維持管理計画についてと、舟橋村で生産されたお米の住民向け販売について、生活に密着した質問をさせていただきます。

まず、道路下のインフラについてお伺いします。

今年1月28日、埼玉県八潮市内で下水道管の老朽化や、上水道の破損による道路陥没、水没事故が発生しました。これらの事故を受け、舟橋村内の道路下に埋設されているインフラの安全性や維持管理状況についてお伺いします。

上下水道の現時点での点検・調査結果に基づく村内の上下水道管の老朽化状況と安全性についてと、今後の維持管理や更新計画についてお伺いします。

また、上下水道以外に、村内の道路下に埋設されている、例えばガス管やその他があれば、その管理主体とこれらのインフラの点検、メンテナンスの計画やリスク対策についてお伺いします。

次は、舟橋村産のお米の住民向けの販売についてです。

テレビニュースなどで、去年の夏頃、多くのスーパーでお米売場の商品がなくなり、入荷予定なしの札が張られたりして、それを見た消費者の間で不安が広がりました。

そして、舟橋村に転入してこられた非農家の子育て中の若いお母さんたちから、スーパーにお米がなくて、買えなくて本当に困った。舟橋村で生産されるお米を直接買うことはできないのかしらという、転入された方から多くの声が聞かれました。

そこで、村内で生産されたお米を、地元の農協に出荷するのと同程度の金額で購入できるような仕組みを設けることは可能でしょうか。例えば、生産者と連携して住民向けの直接販売会や予約販売制度などを実施することは考えられないでしょうか。

これに関しては、一部の生産組合などでは行われていると伺っています。

また、地元産のお米の購入ルート、方法について伺います。

ふるさと納税の返礼品としてではなく、村内産のお米を購入できる具体的な場所や方法があれば示していただきたいと思います。例えば農協、直売所、生産者との直接取引の可能性など、どのような選択肢があるのでしょうか。

地元で生産された安心で安全なお米を、地元住民が適正な価格で購入できる地産地消の仕組みが整えば、新しく舟橋村に転入してこられた住宅団地の非農家の若い子育て中の人たちの負担軽減につながるとともに、地元農業の活性化にも寄与すると考えられま

す。

これらの点について、舟橋村としてどのような取組が可能かお伺いします。

どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（古川元規） 田中生活環境課長。

○生活環境課長（田中 勝） 3 番加藤議員の、道路下のインフラの安全性と維持管理計画についての質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、令和 7 年 1 月 2 8 日に埼玉県 of 県道において、下水道管の破損に起因すると考えられる道路陥没が起き、トラック 1 台が巻き込まれるとともに、約 1 2 0 万人に下水道の使用自粛を呼びかけるなど、大きな影響が発生しました。当該道路陥没は、地下約 1 0 メーターに流域下水道幹線（口径 4 . 7 5 メーター、昭和 5 8 年整備）が埋設されており、下水道管の腐食等が原因と考えられております。

村の上下水道の安全性についてであります。簡易水道は地下約 1 . 2 メーター以内に埋設されており、また口径も 1 5 0 ミリメートルと大きくないので、埼玉県のような事象は、起きる可能性は低いと思われま。

また、下水道につきましては、村内の下水道管の管理を行っている中新川広域行政事務組合の下水道課に伺ったところ、去る 2 月 3 日に、管内の主要な幹線及び鉄筋コンクリートの管を目視による点検をし、異状はなかったと聞いております。

今後については、簡水につきましては、令和 7 年度に耐震化の計画を作成するべく予算計上してあります。

その他の地下インフラについては、道路に埋設物を占有している業者が責任を持って管理していただくことが原則であります。地表から見て異状等があれば、管理者に連絡することとしてあります。

道路陥没に対するリスク対策についてですが、日常の目視点検を主に行い、住民からの小さな陥没等の情報に機敏に対応し、大きな事故を防ぎたいと考えてあります。

続きまして、舟橋村産のお米の住民向け販売についてお答えいたします。

現在、議員ご指摘のとおり、米の販売価格が高騰しております。米の生産に係るコストが 3 年前と比べて約 1 . 7 倍となっており、その他として流通経費等、米が消費者に行き届くまでに多くのコストがかかっていることが要因と思われま。また、米を、米の販売業者以外のバイヤーが投資目的で高値で直接農家から購入し、市場の動向をにらんで、市場に品不足な状態にし、高値で売買していることが大きな要因と聞いてありま。

す。

米価格の高騰を受け、政府は100万トンの備蓄米のうち21万トンを放出する予定で、本日3月10日から行う初回の入札では、全国農業協同組合連合会などの大手集荷業者に対し15万トン売り渡すこととしております。今後も米価が注目されます。

地元住民が通常より抑えた価格で購入できるような仕組みづくりですが、農家から直接購入していただくことが一番だと思います。役場が仲介役となり、米の販売をあっせんすることは、ちょっと非現実的であります。理由は、ほとんどの農家の方が、米の出荷については、全量について農協さんが買い取る契約を結んでいるからであります。

ただ、村として、手をこまねいているわけではありません。東芦原にある民間の農産物直売所「ベジポート」があります。村としては、農家さんが納める農産物販売の手数料20%を負担する事業を実施しております。そのため、村の生産者は販売価格そのものが手元に入ります。

そこで、米を扱っていただけるように要望してまいります。少しでも農家の利益になるような、また住民の方にも安い農産物が入るように、米の販売にも力を入れていきますので、議員のご理解のほど、よろしくお願い申し上げます、答弁いたします。

○議長（古川元規） 加藤智恵子議員。

○3番（加藤智恵子） 今ほどは丁寧な答弁、ありがとうございました。

中で、質問といっても、東芦原のベジポートでちっちゃな小売、お※食堂さんのそういう小売は見たことがありますし、社協さんで、村から出しているご飯に関しては、裏を見ると5キロ入りなんですけども、昔で言う、ごめんなさい、新しい名前は忘れたんですけども、東和営農組合で5キロ入りのを村で買っているとか、そういうのがあって。

今日伺ったのは、意外と皆さんご存じないんですよね、どういうふうに買ったらいいか。そして、なかなか直接買えないので、そういうシステムを、希望が多くあるということで、農協さん……。

私たちにはどうしていいかわからないところがあるので、非農家は。それで、その辺を教えていただけたらなと思ひまして、今回ご質問させていただきました。よろしくお願いします。

○議長（古川元規） 田中生活環境課長。

○生活環境課長（田中 勝） 加藤議員さんの再質問にお答えします。

うちのPR不足もありまして、米はなかなか流通しないというのもありましたので、

東和さん——東和さんは今、うちのほうのふるさと納税の返礼品もしていただいております。東和さんの的には生産量がちょっと多くないものですから、なるべく多くしていただいて、後ろの議長にもお願いして、少しでも。

5キロはすぐ食べられると思うがで、10キロとか。販売の30キロはちょっと多いんですけど、それについてもちょっと検討させていただきたいと思いますので、あとはPRをまたさせていただきますので、よろしくお願いいたします。